キャラクター名
久城 紕俐(くじょう・かざり)

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ブラム＝ストーカー	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	小説家
オプショナル	オルクス	年齢	24	性別	女
覚醒	感染	衝動	飢餓	初期侵食率	28 %
出自	双子	経験	失恋	邂逅	ビジネス:ローザ

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	1	0	0			1
感覚	2	0	0			2
精神	2	1	0			3
社会	3	0	0			3

HP	25
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	9		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	4	
運転：			芸術：			知識：心理	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
『血の雨』		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
-ﾕﾆｰｸｱｲﾃﾑ-	
サングイン	
-一般アイテム-	
コネ:手配師	
コネ;噂好きの友人	
コネ:UGN幹部	
ウェポンケース	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
奇妙な隣人	P	N		
恋人[故人]	P 友情	N 悔悟		
担当編集者	P 誠意	N 脅威		
ナナミ	P 庇護	N 憐憫		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 14	残り財産P： 10

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
鮮血の奏者	2	4	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	視界	単体	自動		
効果：R間攻撃力+[消費HP*3]、Lv点以下HPを消費								
アクセル	4	1	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	視界	単体	自動		
効果：【行動値】+[Lv*2]								
ﾗﾋﾟｯﾄﾞﾌｧｸﾄﾘｰ	2	3	ｾｯﾄｱｯﾌﾟ	至近	範囲選択	ｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ		
効果：範囲至近化								
オリジン:ﾚｼﾞｪﾝﾄﾞ	5	2	ﾏｲﾅｰ	至近	自身	自動	RB	
効果：【精神】判定達成値+[Lv*2]								
雨粒の矢	1	3	ﾒｼﾞｬｰ	視界	ｼｰﾝ選択	RC		
効果：「攻撃力:+Lv*2」								
ハートレスメモリー	1	4	ﾒｼﾞｬｰ	視界	単体	RC	RB	
効果：死者呼び出し								
ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ	★							
効果：感情とかを血から読み取る								
仕組まれた幸運	★							
効果：たまにラッキーなことが起きる。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

-概要-
酷い浪費癖のあるUGNエージェント。
普段は小説家として過ごしており、所持金が尽きたときにUGNの仕事をするイリーガル契約だった。
しかしあまりにも所持金の尽きるテンポが速く、イリーガル用の任務では飢え死ぬと文句を言われエージェント契約に切り替えられた。
近年になり少しずつ彼女の小説がコアなファンに受け始め、印税収入を得れるようになったらしいが
それに比例し彼女の浪費癖が加速したため生活環境の変化は今のところない。

備考:彼女の家は家賃3.5万の3階建てビルの最上階であり
下層には売れていないカフェと黒人店主のタイ式足つぼマッサージ(そこそこ盛況)のテナントが入っている。
また、浪費の大部分は古本の購入であり、中には一冊100万円を超える蔵書もある。
家の中は半分が本棚で残りのスペースに生活環境が圧縮されている。

-戦闘スタイル-
彼女の持つ本のとあるページを開くことで能力が発現する。
それは本の元の持ち主が好きであった物語であり物語の山場。その想いに形を与え武器とするのが主な戦闘スタイルだ。
能力を発現するとその場にある血を槍の様に鋭く変形させその場の全員を串刺しにする。

---来歴---
ごく普通の家に双子として生まれた。片割れは大学入学時に家を出ていきそれっきり音沙汰がない。
いつも一緒だった片割れのことを最初こそ心配していたが「無沙汰は無事の便り」と割り切り探すことをやめている。
その穴を埋めるように地元の大学で知り合った友人と最近まで同居していた。
しかし自身の嘘をつけない不器用さで友人を傷つけ、現在の一人暮らしに落ち着いた。